

【練習問題】

問一

傍線部①「心ばせ」の語義として、この文脈で最も適切なものはどれか。

- ・ア: 気配り・嗜み(たしなみ)
- ・イ: 意志の強さ
- ・ウ: 信仰心の深さ
- ・エ: 記憶力の良さ

問二

傍線部②「不便なる(ふびんなり)」の、古文における最も頻出の意味はどれか。

- ・ア: 気の毒だ・かわいそうだ
- ・イ: 便利ではない
- ・ウ: 貧乏である
- ・エ: 体調が悪い

問三

恋愛の場面における「かごと(託言)」の訳出として、必須の解釈はどれか。

- ・ア: 相手への恨み言
- ・イ: 弱音・泣き言
- ・ウ: 言い訳
- ・エ: 冗談・戯言

問四

「聞き給はねば」の「ね」の文法的説明として正しいものはどれか。

- ・ア: 打消の助動詞「ず」の已然形

- ・イ:打消の助動詞「ず」の連用形
- ・ウ:完了の助動詞「ぬ」の已然形
- ・エ:完了の助動詞「ぬ」の未然形

問五

和歌の解釈において、「～な(禁止)」や「～し(願望)」などの表面的な表現の奥にある、詠み手の本音として最も重視すべき要素は何か。

- ・ア:能動的な欲望(独占欲など)
- ・イ:表面的な道德観
- ・ウ:情景描写の美しさ
- ・エ:相手への単なる同情

問六

『源氏物語』の作者、紫式部と同じ時代(平安中期)に活躍した人物を選べ。

- ・ア:和泉式部
- ・イ:阿仏尼
- ・ウ:式子内親王
- ・エ:持統天皇

問七

会話文の主語判定において、最も確実な手がかりとなるのは何か。

- ・ア:直後の「～と言ふ／答ふ」等の動作主
- ・イ:直前の人物名
- ・ウ:文中の形容詞の意味
- ・エ:単なる勘

【解説】

問一 心ばせ

【正解】ア(気配り・嗜み)

「心ばせ」を見たら、単なる「優しさ」だと思ふことなかれ。そこには必ず「知性・教養・育ちの良さ」が含まれる。

ただ性格が良いだけでなく、「場をわきまえた振る舞いができる」「奥ゆかしさがある」のが「心ばせ」。

鉄則：選択肢に「気配り」だけ書いてあるものより、「気配り＋教養(嗜み)」のニュアンスを含んでいるものを選ぶべき。

問二 不便なる

【正解】ア(気の毒だ・かわいそうだ)

これは丸暗記ではなく、意味の派生(変化のルール)で理解しろ。そうすれば一生忘れない。

1. 不便(ふびん) = 都合が悪い(現代語と同じ)
2. 都合が悪い状態 = 世話をするのが大変だ
3. あいつは世話が焼けるなあ(大変な状態だなあ)
4. 見ていてつらい・かわいそうだ(=気の毒だ)

古文ではこの「4」の意味で出る。漢字で「不憫」と書くイメージを持とう。

問三 かごと

【正解】ア(相手への恨み言)

「かごと(託言)」＝「愚痴(ぐち)」だが、ただの弱音じゃない。

「私の気持ちも知らないで、あなたは冷たい」という、相手のせいにするニュアンスが必須だ。

・訳出のポイント:「言い訳」や「弱音」で逃げるな。「恨み言(うらみごと)」という強い言葉が入っている選択肢が正解になる確率が高い。

問四 聞き給はねば

【正解】ア(打消の助動詞「ず」の已然形)

「ね」の識別に迷ったら、上を見るな、下を見ろ。これが時短テクニックだ。

・「ね」＋「ば・ど・ども」

→ 下が接続助詞なら、この「ね」は已然形だ。

→ 已然形の「ね」を持つのは、打消「ず」しかない。

・（訳：～ないので、～ないけれど）

・「ね」＋「。（句点）／など」

→ 下で文が切れていれば、この「ね」は終止形だ。

→ 終止形の「ね」を持つのは、打消推量「じ」か、ナ変の活用語尾だ。（※完了「ぬ」の命令形の場合もあるが、文脈で分かる）

今回は「ね＋ば（確定条件）」の形だから、秒で「打消の已然形」と判断しよう。

問五 和歌の解釈

【正解】ア（能動的な欲望）

和歌において「な～そ（～しないでくれ）」という禁止表現や、強い反語が出てきたら、その裏にはドロドロとした独占欲があると思おうを

綺麗な言葉で飾っていても、本音は「誰にも渡したくない」「自分だけを見てほしい」というエゴ！

私大では、この「人間の生々しい本音」を見抜いているかどうか問われる。表面的な「きれいごと」の選択肢に騙されないように！

問六 文学史

【正解】ア（和泉式部）

関西圏の大学（特に関関同立）を受けるなら、「一条天皇の時代の才女たち（平安中期）」はセットで覚えよう。

・チーム平安中期：紫式部、清少納言、和泉式部、赤染衛門

このメンツが並んでいたら「同時代」だ。阿仏尼はもっと後の鎌倉時代（『十六夜日記』）、式子内親王は新古今（平安末～鎌倉初）！

問七 主語判定

【正解】ア（直後の「～と言ふ／答ふ」等の動作主）

主語が分からなくなったら、会話文の最後のカギカッコ」を探そう！

その直後には必ず」と、～言ふ。のような形がある。

「誰が言ったか」の答えは、カギカッコの下に書いてある。

雰囲気や敬語だけで判断せず、まずはこの「形」を確認するのが、ミスをゼロにする鉄則！